

つながろう！ ネットワーク情報交換会！

発行：京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課
電話：075 (746) 7734

平成30年1月



京都市内では、認知症とともに住み慣れた場所で自分らしく暮らせる地域をつくるために、各地域で専門職や地域住民などから構成され、活動範囲も活動内容も地域に合わせて作られたネットワーク（以下、「認知症ネットワーク」と表記）があり、地域特性に応じて主体的で先進的な活動を展開しています。そんな多様な認知症ネットワークがつながるような、ネットワーク情報交換会を行いました！

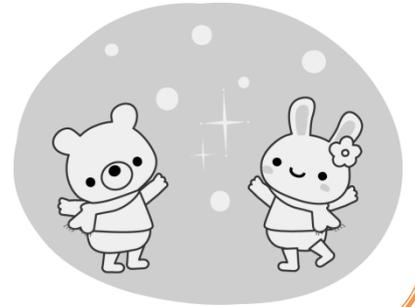
ネットワーク情報交換会とは？

地域の認知症支援の推進力となっている認知症ネットワーク同士が連携を深めることで、京都市全体の認知症支援の動きが連動したものとなり、いつまでも暮らし続けられるまちになることを推進されるよう目指すものです。今年は認知症の行方不明について共有できるようなツールや認知症サポーター養成講座の取組から、地域を考える機会になるよう2部構成で企画しました。

日時：平成29年11月21日（火） 13:30～16:30

場所：京都市勤業館「みやこめっせ」 地下1階 特別展示場

出席者：各地域包括支援センター、各警察署生活安全課、
各区役所・支所保健福祉センター健康福祉部健康長寿推進課、
その他（医師会・介護保険事業所などの地域ネットワーク関係者、他）



第一部 認知症の方も安心して外出できる環境づくり

目的

市内の認知症ネットワーク関係者に、参加者同士が意見交換を行うこと等を通じて、認知症による行方不明に関する情報共有を図ること。

内容

(1)京都市「認知症高齢者の行方不明時における早期発見に関する連携要領」の変更及び同連携要領の運用についての情報提供（京都市健康長寿企画課 谷本 匡）

⇒市連携要領の変更点の説明と協力依頼、これまでの運用状況等報告しました。

(2)「見守りのためのアセスメントシートについて」行方不明を防ぐための活動報告

（北区・上京区認知症サポートネットワーク 鈴木 太一様、小林 舞見様）

⇒認知症高齢者の行方不明を防ぐ活動”備え”を中心に、見守りのためのアセスメントシートや事例をご報告いただきました。とても関心が高かったです！

「安心しておでかけしたり、家にいることができるように、みんなで考えるためのアセスメントシート（見守りのためのアセスメントシートの正式名）」は北区のHPからダウンロードできます。
（北区・上京区認知症サポートネットワーク）

(3)認知症の人の外出を見守るための意見交換

⇒講話の中で感じたこと、地域でできそうなこと等を共有しました。



北区・上京区認知症サポートネットワーク
小林様、鈴木様

第二部 地域の人々と認知症の人を支えるためにできること

目的

地域での認知症の取り組みを共有し、認知症ネットワーク同士がつながること。

内容

(4) 認知症サポーター養成講座の工夫①子どもから大人まで楽しく学ぶ認サポ

(南区認知症サポートネットワーク 増田 良平様)

⇒南区全体で取り組まれている認知症サポーター養成講座の方法、工夫等ご報告いただきました。シンボルマークでゆるキャラの「みなサポ」も登場しました！

登場した「みなサポ」です。
缶バッジやマグネットもありますよ！



南区認知症サポートネットワーク
増田様



(5) 認知症サポーター養成講座の工夫②「つながる・支える」を体感するゲーム

(醍醐北部地域包括支援センター センター長 岩原 雄貴様)

⇒岩原センター長考案のゲームを体験し、認知症サポーター養成講座の工夫としてご紹介しました。大変好評でした！

グループになって手をつないで行うゲームです



醍醐北部地域包括支援センター
岩原様



(6) グループワーク「私たちの地域の取組自慢！」

⇒KJ法を用いて我が地域のよいところや自慢を模造紙にまとめ、発見・共有しました。

推進員よい…



今年は各警察署の生活安全課の方にもご参加いただき、地域のみんで顔を合わせる機会になり、多くの方にお越しいただきました。アンケートでは、見守りのためのアセスメントシートや認知症サポーター養成講座の工夫への関心が高く、認知症の行方不明や地域の良いところを知る取り組みを通じて、地域について改めて考える機会になったのではないかと思います。今後も京都市内の関係機関が繋がったり、情報を共有できたりするような企画を考えていきたいと思っておりますので、ご参加いただきますよう、お願いします。



コラム

左京区ではセクターを超えた「認知症にやさしいまちづくり」が広がっています！

平成29年10月31日に左京区SOS部会で、認知症になっても安心してお出かけができる地域づくりを目指して、当事者・家族と福祉関係者、警察、交通機関を交えたワークショップが行われました。

認知症の取り組みをまち全体へ広げていくためには、専門職からの一方的な協力をお願いするアプローチは受け入れられにくい…。まずは、認知症の方の声を軸に、タクシー、バス、鉄道の方々の悩みや意見を伺うことで、それぞれの立場を理解・共有し、認知症の人にやさしい地域へのアクションにつなげたいと考えていました。



左京区SOS部会
高齢サポート・岩倉：松本氏



グループワークでは、外出することが認知症の方の楽しみ・生きがいであることに気づいたり、専門やセクター（職域）を超えて、ともに自分たちのできそうなこと・やりたいことを話し合え、参加者全員がワクワク感のある取組であったと思います。